

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立思斉小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

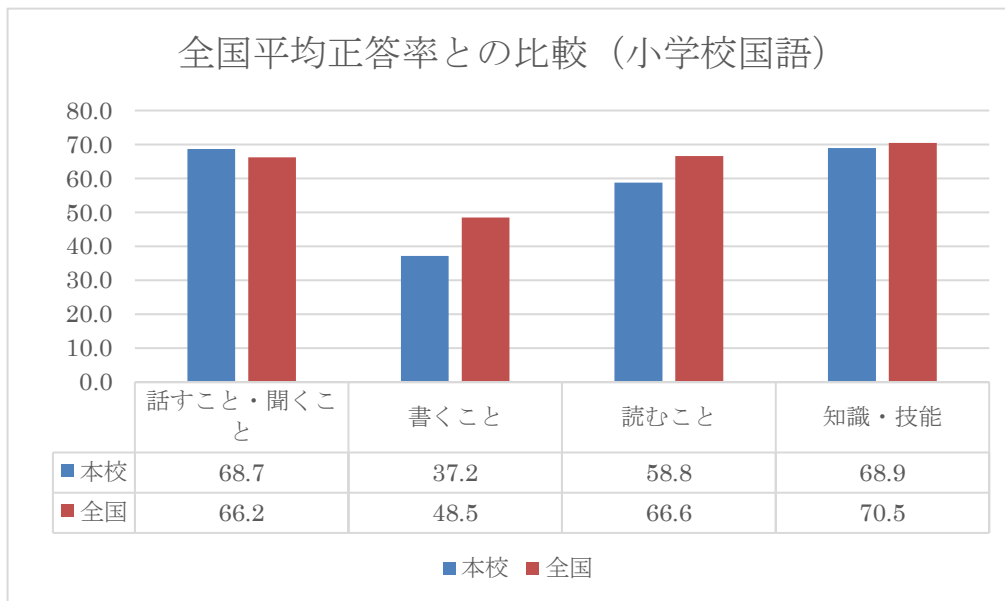
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」は、全国平均正答率を上回っていますが、そのほかの項目は、全国平均正答率を下回りました。無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」が 2.5 ポイント上回りました。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率 48.6%は、全国平均正答率 51.3%を下回っており、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取組

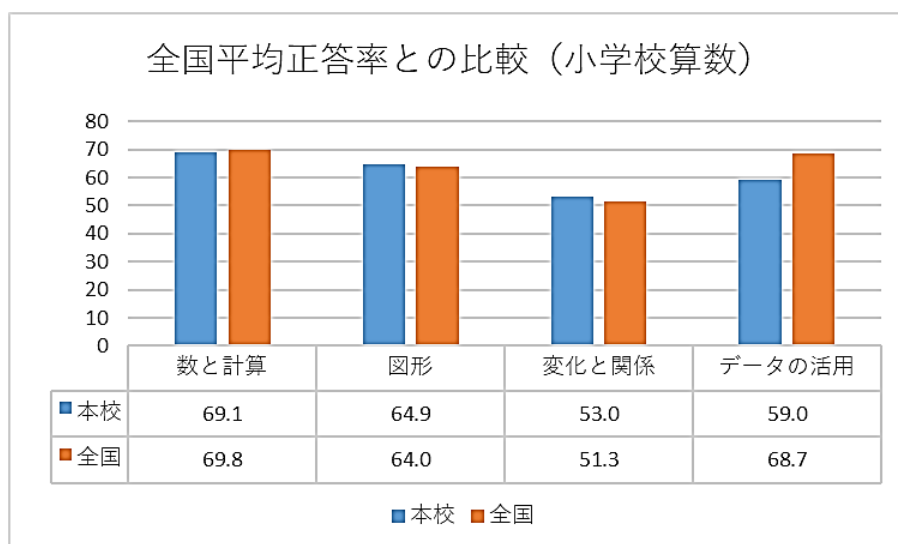
【学校では】

- 児童が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫することで、児童同士が話し合いながら、深く学べるようにします。（主体的・対話的で深い学び）
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 全校で「書く力」を伸ばすことを目的とした取組を実践し、低学年のころから書くことに親しみ、書くことを楽しむことのできる児童の育成を目指していきます。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましょ。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。私立図書館や本屋に定期的に行くことも、児童の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

「数と計算」「図形」「変化と関係」では全国平均とほぼ同等でしたが、「データの活用」では、全国平均を下回っていました。無回答率は、ほとんどの問題で全国平均より低かったのですが、「データの活用」では無回答率が若干高い問題がありました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「C 変化と関係」の領域の比例に関する問題の正答率が全国平均正答率を 1.7 ポイント上回っていました。また、「A 数と計算」の領域の、示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。算数科では、記述式の問題に対応できる力が伸びています。また、今回、プログラミングに関する問題が出題されました。示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題は、全国平均正答率を上回っていましたが、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き換える問題は課題が見られました。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取組

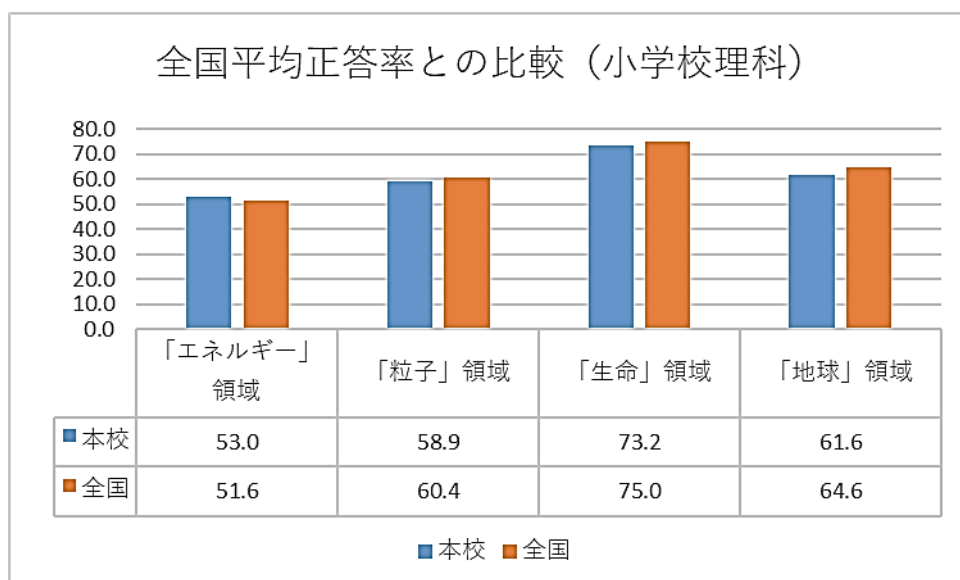
【学校では】

- 単に答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やしたり、学習の振り返りなど書くことを意識した活動を取り入れたりして、記述力の向上に努めます。
- TT・少人数授業、ノートチェック、プリントやドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導にあたります。
- スキルタイムなどの時間を利用して、学習したことの復習や積み上げを行っていきます。

【ご家庭では】

- お子様のドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな!面白いな!」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「お菓子を分ける(わり算)」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算や見積もり」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「エネルギー」と「粒子」の領域で全国平均を上回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」の領域の実験器具の名称を書く問題の正答率が全国平均正答率を16.0ポイント上回っていました。また、「エネルギー」の領域のまとめからその根拠を実験の結果を基にして書く問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。一方で、選択式の問題で2つの答えをもとめられたときに、正確に選択することができない児童が見られたため、普段から答えが複数あるような問題を与え、正確に答えを導く力を図る必要があります。

自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、問題形式の「記述式」の問題でも課題が見られました。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取組

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	89.8%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	53.2%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	64.9%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	49.4%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	40.3%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	75.3%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	85.7%	83.9%

すべての項目において全国平均を上回っています。朝食については、1日の始まりであり、大事なエネルギー源となるので、100%に近づけるようになることを期待しています。起床・就寝についても家庭と学校が協力して習慣化につなげたいと思います。また、「自分にはよいところがある」と肯定的にとらえている児童が50%を下回っていることが分かりました。児童はたくさんいいところをもっているのです、児童が自分のよさを実感できるような取組をすることが必要だと思います。家庭でも学校でもたくさん褒めて児童の自己肯定感や自己有用感を伸ばしていきたいものです。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	26.0%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	6.5%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.7%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	31.2%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	37.7%	25.8%
「30分より少ない」	10.4%	10.5%
「全くしない」	2.6%	4.2%

家庭学習については、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童が約4割を占めていました。「30分より少ない」「全くしない」という児童もあり、個人差が大きいことが分かります。6年生では60分以上勉強したいものです。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて、習慣化につながるように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取組

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）については、全児童に「家庭学習の進め方」の手引きを配付したり、手本になる自学ノートを掲示したりして定着を目指します。
- 年に3回「早寝早起き朝ごはん頑張ろう週間」と「家庭学習頑張ろう週間」を設定し、生活習慣の改善や家庭学習の定着を目指します。
- 児童のよさを見つけ、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を今後も進めていきます。

【ご家庭では】

- 低学年のときから、決まった時間に決まった場所で学習する習慣をつけ、学習の様子に励ましや称賛の声掛けをお願いします。ゲームをする時間、勉強する時間など、家庭のきまりをお子様と一緒に考えることも習慣化の一つの手立てになると思います。
- 「早寝早起き朝ごはん頑張ろう週間」や「家庭学習頑張ろう週間」などへの協力をお願いします。